

令和5年度事業報告書

公益財団法人川崎市産業振興財団

I 景気動向

令和6年1月26日に閣議決定された「令和6年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」において、令和5年度の経済動向は、「コロナ禍の3年間を乗り越え、改善しつつある。30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きが見られ、デフレから脱却し、経済の新たなステージに移行する千載一遇のチャンスを迎えている。」とする一方、「賃金上昇は輸入価格の上昇を起点とする物価上昇に追い付いていない。個人消費や設備投資は、依然として力強さを欠いている。これを放置すれば、再びデフレに戻るリスクがあり、また、潜在成長率が0%台の低い水準で推移しているという課題もある。」としている。

こうした中、令和5年度の実質国内総生産（実質GDP）成長率は、1.6%程度、名目国内総生産（名目GDP）成長率は5.5%程度、消費者物価（総合）は3.0%程度の上昇率になると見込まれている。

II 産業振興財団の取組

川崎市の総合計画第3期実施計画で示された「川崎市のものづくりを支える中小企業の振興」、「市内産業を持続的に発展させるため、成長著しいアジアの中での国際競争力強化に向けた取組を推進」、「川崎発のイノベーション創出」という川崎市の政策の方向性に着実に対応するため、各事業に取り組んだ。

1 総合的な支援サービスの提供

幅広い業種の市内中小企業・ベンチャーの成長をめざして、「総合的な支援サービスの提供」にむけて、事業間での連携を促進するために各課に配置する連携推進担当を拡充し、多様な経営課題に対応した。

また、「かわさき起業家オーディション」事業の再編に取り組み、中堅・大企業など多様な事業主体と連携した支援体制を構築した。

2 産業振興会館の着実な運営と次期指定管理への応募

産業振興会館の運営については、会館の価値向上・企業支援拠点機能の取り組みを継続し、安全・安心な施設の維持・管理を行う。

次期指定管理への応募については、前年度までの整理とこれまでの指定管理業務の成果等に基づき、会館を「中小企業やベンチャー支援の拠点」と位置づけ、引き続き、京急サービス株式会社との共同事業として提案書を作成し、指定管理者に指定された。

3 新川崎エリアの価値向上

今年度からスタートした第5期指定管理を「発展成長期間」と位置付け、「①世界水準の研究開発環境の提供」「②世界水準のイノベーション創出支援サービスの提供」「③世界水準のベンチャーエコシステムと KBIC コミュニティの形成」「④地域一体となった世界水準の SDGs 未来都市づくり」の4本柱を基本方針とし、「新川崎発ベンチャーエコシステム」の形成を目指した運営を行った。

4 殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」のクラスターマネジメント

キングスカイフロント及びその周辺地域にイノベーションを継続的に創出するための仕組みを構築するとともに、キングスカイフロントの世界最高水準クラスターとしての持続的な発展・成長を目指し、①企画調整機能、②窓口機能、③広報機能、④事業化支援機能、⑤広域連携機能、⑥スタートアップの集積及びその起業・経営支援機能のより一層の充実を図った。

5 ナノ医療イノベーションセンターの運営

川崎市殿町地区「キングスカイフロント」の中核拠点として、研究活動及び諸事業を推進した。研究拠点の適正な管理運営に向けては、安全管理や法令遵守の意識向上と体制強化、研究環境の整備や研究資源の最適配分に努めた。

研究活動では、令和4年度に採択を受けた「プロジェクト CHANGE」において、「ケア技術」と「老化抑制研究」のイノベーションに向けた活動を実施した。

また、さらなる研究活動の拡充に向け、日本学術振興会の科学研究費助成事業、日本医療研究開発機構（AMED）の公募事業などの採択を受けた研究を推進した。

Ⅲ 実施事業の概要

【公1】 中小企業支援事業	ページ	事業区分
1 中小企業経営支援事業		
(1) 支援人材活用・支援体制整備事業	4	一般事業
(2) 窓口相談等事業	4	一般事業
(3) ワンデイ・コンサルティング事業	5	一般事業
(4) 専門家派遣事業	5	一般事業
(5) 販路開拓支援事業	5	一般事業
(6) 知的財産戦略推進プログラム啓発・交流事業	5	一般事業
(7) 経営課題別支援事業	7	一般事業
2 情報推進事業		
(1) 情報誌「産業情報かわさき」	8	産業振興会館事業
(2) 産業情報コーナー運営	9	産業振興会館事業
(3) インターネット情報発信・スタジオの活用	10	産業振興会館事業
(4) 販路開拓業務	11	産業振興会館事業
3 人材育成事業		
(1) 経営人材育成事業	11	一般事業
(2) デジタルスキルアップ研修・IoTセミナー・異業種交流事業	12	産業振興会館事業
(3) 品質・環境管理支援研修講座等	12	産業振興会館事業
4 技術振興事業		
4-1 企業の技術革新の支援、人材育成を支援するための研究会等運営業務	13	産業振興会館事業
4-2 ロボット技術振興事業	14	産業振興会館事業
5 新事業創出支援事業		
(1) 起業家育成支援事業	15	一般事業
(2) かわさき起業家オーディション事業	16	一般事業
(3) 川崎市海外ビジネス支援センター運営業務	17	一般事業
6 産学連携推進事業		
(1) 産学連携コーディネート事業	17	一般事業
(2) 産学連携情報交流促進事業	18	一般事業
(3) コーディネート支援・出張キャラバン隊	19	一般事業
7 新産業政策研究事業	19	一般事業/産業振興会館事業
8 産業振興施設の管理運営事業		
8-1 産業振興会館管理受託事業	20	一般事業
8-2 かわさき新産業創造センター運営事業	22	KBIC事業
8-3 キングスカイフロント シェアオフィス施設管理	26	クラスターマネジメント推進事業
9 クラスターマネジメント推進事業	26	クラスターマネジメント推進事業
【公2】 科学技術振興事業		
10 ナノ医療イノベーションセンター運営事業		
(1) ナノ医療イノベーションセンター施設管理・研究支援事業	34	iCONM事業
(2) 独自研究の促進、受託研究、企業等との共同研究の推進	35	iCONM事業
【取1】 公益目的事業以外の事業		
11 インキュベーション事業	38	インキュベーション事業
12 財団運営に関する事項	44	法人会計

1 中小企業経営支援事業

起業、中小企業の経営支援等について見識の高いプロジェクトマネージャー、マネージャーを「川崎市中小企業サポートセンター」に配置するとともに、経営、技術、法律等の外部専門家を活用し、「窓口相談事業」、「専門家派遣事業」、「ワンデイ・コンサルティング事業」を実施し、中小企業の経営診断・助言など総合的な支援事業を実施した。

また、販路開拓支援事業として九都県市連携による商談会である「九都県市合同商談会 2024」をパシフィコ横浜にて開催するとともに、「テクニカルショウヨコハマ 2024」において川崎市や川崎市工業団体連合会、川崎ものづくりブランド推進協議会等とともに川崎市共同出展特設ブースを構えることにより市内企業の出展を促し、市内企業の販路拡大支援を行った。

川崎商工会議所、川崎信用金庫及び川崎市とともに KAWASAKI 事業承継市場において、4者連携協力して中小企業者の持続的発展を促し事業所数と雇用の維持拡大、地域経済の活性化に寄与することを目的に個別訪問指導を中心に実施した。

「知的財産戦略推進プログラム啓発・交流事業」では大企業の開放特許など知的財産の活用を通じた中小企業振興を図り、同時にこの知財活用の動きを全国的に波及させるため他自治体と連携した活動を行った。

(1) 支援人材活用・支援体制整備事業

中小企業の経営の改善や起業の促進を図っていくためには、対象者の課題やニーズを的確に把握し、それらに見合った支援策を企画することはもとより、サポートセンター全体の支援策を効果的に運営していくマネジメント能力を備えた人材を配置することが必要である。そのために高度の専門知識、豊富な実務経験、幅広い人的ネットワークを有する公的支援機関及び民間企業経験者をプロジェクトマネージャー（1名）、マネージャー（2名）として配置し、かわさき起業家オーディション、創業フォーラム、窓口相談、セミナーなど中小企業サポートセンターの事業に幅広く助言等を頂いた。

また、中小企業の経営革新に対する諸支援策をより有機的に機能させるために、中小企業サポートセンターのサービスメニューの広報に努め、他の支援機関との連携強化や専門家派遣事業にかかる131名（弁護士13名、公認会計士6名、税理士10名、中小企業診断士68名、技術士3名、弁理士14名、その他17名）の専門家登録（更新）を行った。

(2) 窓口相談等事業

昨年度に続き月曜～金曜日の平日9:00～17:00まで中小企業診断士等が常駐する相談窓口を設置して主に市内事業者や市内開業を目指す方の経営・税務・法律相談等に対応した。また、主に女性を対象とした起業家無料相談会を川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）で実施した。

【実施件数】372回

(3) ワンデイ・コンサルティング事業

経営改善の支援を行う短期の訪問コンサルティングとして、中小企業、個人事業者及びNPO法人を対象に適切な登録専門家を1事業者につき年3回までを上限として派遣（派遣先の費用負担は無料）して、課題の解決を行った。

また、至急の相談については、事業者のスケジュールに応じて窓口相談事業の利用を促す等、ワンデイ・コンサルティング事業と窓口相談事業と連携して活動した。

【派遣件数】298件

(4) 専門家派遣事業

経営の改善や新たな事業へ取り組む中小企業者や起業家が直面する様々な課題について、登録専門家を実地に派遣し、適切な診断や助言を行うことによって、課題の解決を図った。

【派遣企業数】2社

(5) 販路開拓支援事業

中小企業の広域的な取引や新たなビジネスチャンスの創出等を目的とした「九都県市合同商談会 2024」については令和6年2月7日にパシフィコ横浜にて開催され、事前に参加申込をした受注・発注企業同士の個別商談が行われた（当財団は実行委員会に参加）。参加企業数は340社（発注側参加企業113社、受注側参加企業227社）となり商談回数は851件であった。

その他、令和6年2月7日～9日にかけて開催された工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ2024」については例年通り川崎パビリオン（川崎市共同出展特設ブース）を設け、川崎市内企業や関係団体と共同出展を行った。

(6) 知的財産戦略推進プログラム啓発・交流事業（広域連携事業含む）

知的財産を活用した市内産業の振興をはかるため、平成19年度に策定した川崎市知的財産戦略推進プログラムの重点事業として実施した。

ア 川崎市知的財産シンポジウム等

今年度は川崎国際環境技術展への出展と併せて「かわさき知的財産シンポジウム in 川崎国際環境技術展」をハイブリッド形式で開催した。対象は知財事業で繋がった全国自治体・支援機関の職員や川崎市内外の中小企業。前段では知財マッチング成約企業座談会（マイクロネット×高橋コーディネータ）、後段では大手企業4社（リコー・九州電力・日本アビオニクス・住友理工）と川崎市のベンチャー企業（Sotas）に登壇いただき、開放特許や企業の持つ技術サービスについての紹介を行った。また、開放特許をオンライン上で掲載し、市内外の企業・自治体・支援機関へ情報提供を行い、個別マッチングへ繋げるなど、それぞれの地域でマッチングに資するツールとなった。他金融機関・他自治体と連携して実施したものを含め知的財産マッチング会を計6回開催した。

知的財産コーディネータ・財団職員を合わせ、211件の訪問活動を実施した。中小企業へのシーズ活用提案、大企業側に対する本事業への参加勧誘、マッチングに係る契約交渉の支援、契約後の事業化支援などを行った。また、毎月1回、知財定例会議を実施し、コーディネータ・職員間での情報共有を図った。

シーズ提供大企業については、日本アビオニクス・九州電力・カゴメが本事業への参画を新たに表明し、これまで本事業に参加したことのある企業は53社となり、知財専用HPへの開放特許掲載、川崎市や各地域主催のマッチング会に登壇いただくなど連携を深めた。

具体的なマッチング成果は以下の通りである。

【今年度の成約企業（1件）】

- ・美遊 JAPAN 有限会社 成約 47 号（令和 6 年度商品化予定）
契約先：キューピー株式会社
導入技術：「ペースト状香辛料及びペースト状香辛料の製造方法」
成約年月：令和 5 年 10 月

同社は飲食店「まんま miyu」を運営しており、川崎産の野菜等を使った料理を提供している。また、『香辛子』の普及活動にも注力しており、同素材を使用したレシピの発案や、乾燥・粉末化した素材販売を行っている。今回、キューピーとのライセンス契約を締結し、香辛子をペースト状の調味料という使いやすい形にすることにより、香辛子の更なる普及を図る。

イ 広域連携事業

a. 岐阜県との連携

昨年度に引き続き、今年度も岐阜県内企業を訪問。6月に2社（河合石灰工業株式会社、株式会社SY）、2月に2社（株式会社タナック、奥長良川名水株式会社）を回り、知財マッチング事業を説明し、大企業のシーズ情報等を提供した。

b. 福島県郡山市との連携

令和5月12月21日（木）に郡山市で実施された「郡山テックミートアップ」に後援機関として参加した。知財マッチング事業で付き合いのある商社系企業『㈱テクノアソシエ』を郡山市へ紹介し、当該イベントに登壇した。

c. （公財）郡山地域テクノポリス推進機構（福島県からの受託事業）との連携

福島県の事業を郡山地域テクノポリス推進機構が受託して開催。福島県産業支援機関ネットワーク会議というイベント名で、郡山地域テクノポリス推進機構が中心となり、郡山周辺地域に所在する支援機関所属コーディネータ同士を繋ぐとともに、各機関からの紹介企業とのマッチングを通じて人材育成を図るのが目的。川崎側は本事業にオブザーバー参加し、各種アドバイスをを行った。

d. (公財) 鳥取県産業振興機構との連携

知財マッチングに注力している鳥取県産業振興機構では毎年度知財マッチング会を開催している。今年度より大企業による開放特許の紹介だけでなく、ベンチャー企業枠を設けて技術紹介をしてもらうことにした。先方からの依頼で当該枠に川崎市ベンチャー企業のシンクロア株式会社を紹介。その後、10件の面談を実施した。

e. 広域連携企業交流会の開催 (川崎市・磐田市・大田区)

域内を超えた技術連携や協業による企業支援を目的に、ものづくり企業が集積する3自治体 (川崎市・磐田市・大田区) が連携し開催。各自治体の施策紹介、中小企業登壇による企業紹介および交流会を行うことで、来場者と登壇者の情報交換・マッチングの機会を図った。

日 時 : 令和6年1月19日 (金) 15:00~18:30

開催場所 : PiO PARK + WEB 配信

- ・参加自治体の産業施策紹介
- ・各自治体ものづくり企業紹介 (川崎市登壇企業 : 焼結合金加工株式会社・株式会社ヒラミヤ・リカザイ株式会社)
- ・HANEDA×PiO 入居企業紹介
- ・企業交流会

参加者数 : 合計 53 名 (参加費無料)

ウ 展示会への出展

本事業PRのため、以下の展示会へ出展した。

展示会名 : 第16回川崎国際環境技術展

主催 : 川崎国際環境技術展実行委員会

会期 : 令和5年11月15日 (水)・16日 (木)

(7) 経営課題別支援事業

ア 事業承継事業

平成29年12月に、川崎市、川崎商工会議所、川崎信用金庫と締結した「中小企業者の事業承継支援に関する協定書」に基づき構成したKAWASAKI事業承継市場において、以下の取組を行った。

① 出張講習会

- ・日 時 令和6年2月9日 (金) 19:30~21:00
- ・会 場 東門前一・二丁目町内会館
- ・団体名 川崎大師本通り商店会
- ・演 題 事業継続の決断、「先送りしない」準備
- ・講 師 株式会社イノベーションパートナーズ代表取締役
中小企業診断士・事業承継士 坪田誠治 氏
- ・参加者 6名

② 個別訪問指導 57件

③ セミナー

- ・ 支援機関向け動画制作

支援機関者が事業者ヒアリングを行う際の基礎知識

④ 広報活動

個別訪問指導のチラシ 1,000 部作成し、各支援機関が配布

イ 働き方改革・生産性向上支援コーディネート事業

川崎市から働き方改革・生産性向上支援コーディネート業務を受託し、製造業をはじめ、小売業・サービス業、IT 産業、建設業、運輸業等市内様々な分野の企業等のべ 460 件の支援を実施した。

本業務では、企業における生産性向上、働き方改革に関する取組み状況についてヒアリングを行ったほか、法改正に伴う就業規則の見直しについてのアドバイスや、在庫管理システムや生産管理システムの導入支援、社内人材育成計画策定、人事評価制度の構築といった課題に対応した専門家の派遣を行った。

また、川崎市で実施された関連の支援メニュー申請の事前指導、採択後のフォローもあわせて行った。さらには、働き方改革・生産性向上に取り組む企業の伴走支援として、新事業展開等に係る補助金活用支援や企業間のマッチング支援なども実施した。

2 情報推進事業

情報推進事業では、情報誌やインターネット等、各種媒体を通じて市内企業の情報発信や、各支援機関の情報収集及び提供を行い、市内産業情報の交流・発信拠点としての整備強化に努めた。

また、財団内のシステム連携やサーバ更新、情報セキュリティ対策のほか、業務効率化に向けたシステム改修等を実施した。 <一部川崎市指定管理者事業>

(1) 情報誌「産業情報かわさき」

産業情報かわさきを毎月 10,000 部（年間 12 回）発行した。産業支援の情報をより分かりやすく提供するため、前年度に行った紙面のリニューアルを踏まえた編集を行った。

川崎市並びに当財団の産業支援施策や関係各機関の支援情報、市内外の企業動向（技術革新、経営革新、産学連携などの先進事例）など、製造、建設、サービス、商業、医療、福祉等、様々な業種の企業活動に有益な情報を具体的な事例などを加えながら掲載した。リアルで開催となった川崎環境技術展や、生産性向上・働き方改革、海外展開支援等の経済労働局各事業の紹介や川崎を拠点とする企業を取材して紹介する特集記事「ビジネスエコー」を定期的に掲載した。財団サポートセンター事業並びに KBIC、iCONM、クラスター事業部の事業紹介、財団主催のセミナー、各種研修会

情報等も掲載しPRに努め、市制100周年に因んだ長寿企業紹介の連載も行った。

市内企業情報の発信にも力を入れ、川崎ものづくりブランド認定製品等の紹介を行った他、財団が2021・2022年に設置した「外国人雇用・就労支援等検討会」の活動でヒアリングした市内企業の工夫やアドバイス等を報告した。

産業情報かわさきは、JR川崎駅、京急川崎駅、等々力工業会常設展示場に配布専用ラックを設けている他、市内金融機関各支店、かながわサイエンスパーク、神奈川県立産業技術総合研究所溝の口支所等関係団体、市内商工業団体、組合、他都市の情報センターに配布し、多くの市民、企業関係者に提供できるよう努めた。



【産業情報かわさき 令和6年3月号】

(2) 産業情報コーナー運営

ア 6階閲覧コーナー

会館6階に、産業経済関係の資料（雑誌、川崎市関係部局の産業関連パンフレットや会館テナント事業者のパンフレット、公共機関を含めた関係機関の機関紙、パンフレット等）を常備し、閲覧できるコーナーを運営し、多分野に渡る産業情報の発信基地としての機能を高めた。また、市内の指定管理施設のパンフレット等も配置し、他の施設の利用も促した。

イ 1階ロビー

1階ロビーの情報発信スペースでは、市内企業を取り上げた冊子等を配架した他、2階カフェに設置した川崎ものづくりブランド製品、9階スペースへ設置した川崎CNブランド製品等、各フロアを活用した情報発信を行った。

その他、ロビーに設置している大型ビジョンに川崎市や財団のPR（新川崎・創造のもり、iCONM等）を放映し広報に努めた。

さらに、神奈川県警察サイバーセキュリティ対策本部と連携し中小企業へのサイバー攻撃への対処意識を高めてもらうことを目的に設置したサイバーセキュリティステーションでサイバーセキュリティ月間の広報も行った。



【パンフレットスタンド】



【2階カフェものづくりブランド製品】



【大型ビジョン映像】



【サイバーセキュリティステーション】

ウ 2階カフェ：川崎ものづくりブランド製品の紹介

2階カフェ展示スペースにて川崎ものづくりブランド製品の紹介を行った。

エ 各フロアスペースの活用

各階空きスペースを活用し、3階、6階、7階、10階、11階の通路壁展示用レールで市及び財団事業のPRを行った。

9階には川崎 CN ブランドの製品展示を行った。



【7階 通路壁のパネル展示】



【9階 川崎 CN ブランドの製品展示】

(3) インターネット情報発信・スタジオの活用

インターネットを活用した情報収集、コンテンツの作成・更新等、本指定管理業務を紹介するホームページの運営を行った。市経済労働局や財団、支援機関等の産業情報・施策情報を発信するプラットフォームとしての機能（産業バンクかわさき）も有し、ビジネスに役立つ情報を市内企業向けに発信した。

その他、市内中小製造業の若手技術者等をインタビューし、ゲンバの活力を伝えるホームページ「ゲンバ男子・女子」の運営を行った。

11階スタジオの機材を使い市内企業の情報発信につながる映像や動画のコンテンツの制作を行った他、中小企業に役立つ情報を Youtube で配信した。

ア 産業バンクかわさき

「イベント情報、施策・事業紹介」「統計情報リンク集」の更新及び削除等を実施した。

イ ホームページゲンバ男子・女子の運営

ゲンバ男子・女子取材企業 2社2名

ウ スタジオの活用

a. 中小企業に役立つ情報配信

11階スタジオの機材を使い市内企業等のPRを目的とした取材・動画制作等を行った（計2回）。

b. Youtube による Live 放送

一般社団法人キャリアコンサルティング振興協会代表理事キャリアコンサルタントの須田万里子氏をファシリテーターに、川崎の元気企業として美遊 JAPAN をゲストに招き、「香辛子」の新たな可能性の模索について Live 放送を行った。(1回)

(4) 販路開拓業務

「かわさきデータベース」と「企業データ・中小企業支援サポートシステム」を統合したクラウド環境による新支援システムの基盤業務を行った。川崎市内で新たに設立（事業所登録）した企業情報を収集し財団支援メニューやパンフレット等を郵送した。また、データベース登録企業等に対し販路拡大、マッチング案件の紹介など具体的な支援を行った。また、フェスティバルな川崎&連連つなごうかわさき 2023 両イベントの実行委員メンバーに就任し開催協力を行った。

3 人材育成事業

技術革新の進展、企業の国際化・情報化等へ対応できる人材の育成に向けて、必要な知識の習得を目的とした各種の主催及び共催セミナー、デジタルスキルアップ研修講座、ISO 内部監査員養成講座を実施した。

＜一部川崎市指定管理者事業＞

(1) 経営人材育成事業

ア 主催セミナー・共催セミナー

中小企業の経営者や管理者、実務担当者等を対象に、金融機関、神奈川県かながわ労働センター川崎支部 関東職業能力開発促進センター（ポリテクセンター関東）、一般社団法人川崎中小企業診断士会、NPO法人かわさき技術士センター等との共催により IT、SDGs、経営管理、人材活用など多岐にわたる分野のセミナーを開催した。特に、インボイス制度に特化したセミナーや個別相談会を計6回実施し、143名の参加があった。

【開催数】 21回

イ 知的財産スクール

主に中小企業の経営者・管理者を対象に、知的財産に関する基本的な知識や企業経営への活用の考え方などを修得することを目的として、令和5年7月5日から8月2日にかけてフルオンライン形式にて実施した。(※7/26と8/2の回は川崎市産業振興会館8階第2コンピュータ研修室にて開催) また、経済産業省関東経済産業局が主催するセミナー「サーキュラーエコノミー最前線。積極企業に聞くビジネス活用法と知財」で知財事業の紹介をするなど連携を図った。

セミナー実施後のアンケートにおける「満足度と理解度」については、いずれの回もほぼすべての回答者が「満足」および「理解できた」と回答しており、全体的に質の高いセミナー開催となった。

【開催数】 7回

(2) デジタルスキルアップ研修・IoT セミナー・異業種交流事業

ア デジタルスキルアップ研修講座

I Tは中小企業においても、従業員の情報化育成、業務の効率化に加え、他品種・少量・短納期への対応、業務の可視化による戦略的経営の推進など経営力を高めていく上で必要なビジネスツールである。こうしたことに対応するため実務に直結した実践型のパソコンを用いたデジタルスキルアップ研修を開催した。講座内容は、総務/事務職のための Word や Excel のスキルアップを目指した講座、PowerPoint 初級講座、Word・Excel・PowerPoint の便利な機能を学習する office 時短ワザ講座、中小企業向けにインターネット上でホームページ作成ができる無料のサービスを使ったホームページ作成講座、画像作成や編集が簡単にできるデザインソフト Canva 講座と、販促・集客に活かすことのできる Instagram 運用講座を開催した。

【開催数】 主催研修 47 回／年（目標 60 回）
パソコン貸出し（受託）研修 30 回／年（目標 30 回）

イ 中小企業大学校と連携した「強い組織をつくる職場活性化の進め方」研修の開催

中小企業を支える人材育成の支援を目的に、独立行政法人中小企業基盤整備機構中小企業大学校東京校と連携し、組織の力を引き出す管理者となるための実践的なリーダーシップ研修を開催した。開催場所は当会館会議室を活用し中小企業大学校のサテライトゼミと位置づけ実施した。

■第 1 回

テーマ 女性リーダー研修
開催日 令和 5 年 6 月 2 日（木）・3 日（金）・29 日（水）
参加者 13 名

■第 2 回

テーマ リーダーシップ強化講座
開催日 令和 5 年 10 月 4 日（木）・5 日（金）・13 日（金）
参加者 28 名

(3) 品質・環境管理支援研修講座等

中小企業における営業活動及び生産技術部門の強化等を図るため、ISO 規格 (ISO9001、ISO14001 など) 取得済みの企業を支援するための講座を開催した。

【開催数】 10 回／年（目標 11 回）

- ・ ISO9001 内部監査員養成講座 6 回
- ・ ISO14001 内部監査員養成講座 4 回

4 技術振興事業

4-1 企業の技術革新の支援、人材育成を支援するための研究会等運営業務

中堅・中小企業を会員とする「新分野・新技術支援研究会（略称：NFT）」の運営を中心に、会員企業の情報交流・技術交流等を進めた。特に、市内各経済団体との交流や他都市企業との交流等、外部とも積極的に連携をはかったほか、財団内の各セクションとの事業連携により課題解決支援を進めるなど、個々の企業支援にも努めた。

＜川崎市指定管理者事業＞

(1) 新分野・新技術支援研究会

新分野・新技術支援研究会（New Field and new Technology research 略称：NFT）は、中堅・中小企業を会員とし、新分野進出・新技術開発を目的として、技術力向上、新事業創出、経営基盤の強化、販路開拓等必要なテーマを設定し、各分野の専門家を招いた4つの研究会・を開催した他、2回の特別公開セミナーを開催した。

研究会名	コーディネータ	回数
IT ツール・Web ツール研究会	株式会社スプラム 代表取締役 竹内幸次 氏	4
アクションリサーチ研究会	神奈川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 行本勢基氏	9
SDGs 研究会	法政大学 デザイン工学部 建築学科 教授 川久保 俊 氏	4
人生活用研究会	一般社団法人キャリアコンサルティング振興協会 理事長 須田万里子 氏	6

◆ 見学会

会員支援の一環として、神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）溝口支所及び市中小企業間連携新規事業化創出モデル事業の一環である「川崎イイモノ直売所」の見学を行った。

(2) 産学連携コーディネート支援、神奈川大学・学会支援

ア 神大テクノフェスタ 2023 後援

イ 一般社団法人機械学会神奈川ブロック「工作教室」の共催

- ・内 容：スターリングエンジンの製作
- ・日 時：令和5年8月6日（日）10時30分～12時、13時30分～15時
- ・場 所：12階会議室

(3) その他

ア 日本社会基盤安全技術振興協会勉強会の後援

- ・内 容：「EXT SOLUTION～「非破壊検査」×「〇〇〇」のコラボレーション～
- ・日 時：令和5年8月30日（金）13時～16時30分
- ・場 所：1階ホール

イ クロスウェル臨床自律神経機能 Forum の共催

“こころ”と“からだ”の健康増進を図るべく日々研究をしている医師・研究者に、自律神経に関して基礎から臨床応用まで、さらに心豊かな暮らしにつながる情報の発信、交流の場として企画しており、今年で第6回目の開催となる。講演、ポスター形式等で自律神経に関する臨床・研究情報を発信した。

- ・日 時：令和5年11月18日（土）
- ・場 所：4階 企画展示場（ハイブリッド開催）

ウ 川崎市地球温暖化防止活動推進センターのフォーラムの共催

- ・日 時：令和6年2月13日（火）
- ・場 所：ステーションコンファレンス川崎 RoomD（ハイブリッド開催）

4-2 ロボット技術振興事業

ロボット関連技術者の育成を目的に開催しているかわさきロボット競技大会（バトルロボット部門、Jr.ロボット部門、テクノ・クエスト部門）、は、前年度に引き続き参加者及び関係者の安全を確保し、会場である川崎市産業振興会館の構造や収容人員、移動時の動線等を踏まえ、参加チーム数を48としバトルロボット部門を1日のみで開催した。

なお、今回から事前申込による観客を受け入れての実施とした。

また、市内企業も応募する神奈川県公募型ロボット実証実験支援事業への委員参加、など、ロボット関連の各事業を実施した。

<川崎市指定管理者事業>

(1) 第28回かわさきロボット競技大会

- ・競技内容：脚・腕構造を持つラジコン型ロボットによる異種格闘
- ・競技方法：トーナメント方式・敗者復活戦あり（予選1本勝負、決勝3本勝負）
- ・開催日：令和5年8月27日（日）
- ・開催方法：無観客（YouTube 生配信を実施）
- ・会 場：川崎市産業振興会館（川崎市幸区堀川町66-20）
- ・主 催：川崎市、公益財団法人川崎市産業振興財団



大会当日の様子

(2) かわさきロボットサロン

新型コロナウイルス感染拡大の影響等により「ロボットサロン」の運営は中止となっていたが、次年度からは別利用することとなった。

(3) 技術者交流サイトの運営

かわさきロボット競技大会のアーカイブや関連動画、お知らせ情報等を紹介するホームページの運営を行った。

(4) かわさき・神奈川県ロボットビジネス協議会の運営、神奈川県ロボット公募型実証実験実行委員会への参加

神奈川県等ともにかわさき・神奈川県ロボットビジネス協議会の運営を行った。

その他、神奈川県がさがみロボット産業特区の取組として行う、生活支援ロボットの实証実験を支援する公募型実証実験実行委員会へ参加し、市内企業への活用促進やロボット関連技術を持つ企業の情報収集に努めた。

(5) 展示会等への出展

「かながわロボットイノベーション2023／モノづくりパビリオンwithかながわ2023」への出展を行い、ロボット関連技術を有する市内企業の販路拡大の機会の提供を行うとともに財団支援施策の紹介などを行った。

5 新事業創出支援事業

個人による創業や新たな企業の設立及び新製品の開発などの新分野進出を促進するためのビジネスプラン発表の場である「かわさき起業家オーディション事業」を4回開催したほか、「元気な起業家育成支援事業」として「創業フォーラム」「かわさき起業家塾」を開催した。

また、市内企業の海外展開支援として、海外への販路開拓、技術移転、知的財産保護、ネットワークの構築を目的とした事業を行った。

(1) 起業家育成支援事業

ア 創業フォーラム

創業に関心を持つ幅広い層に向けて、個人として活動を始めたい方から法人設立を目指す方まで、具体的に行動に移すための情報や知識を提供する場としてのフォーラムを令和5年7月28日及び令和5年10月20日にK-NICで行った。

イ かわさき起業家塾

創業を検討している人や事業計画の再構築を模索している人などアーリースター

ジの起業家を対象として、起業に必須の知識の習得と成功のためのビジネスプランを作成することを目的とした全8回（令和6年1月17日～2月24日）から成る講座を開催した。事業実施にあたり、当財団やK-NICのホームページやチラシなどによって川崎市を中心に幅広く告知し21名の参加を得た。

K-NICを会場に、全回リアルで開催した。参加者のうち17名については、「経営、財務、販路開拓、人材育成」に関する知識が十分に習得されたと認められ、特定創業支援事業の修了者として認定された。

(2) かわさき起業家オーディション事業

起業家や新事業展開にチャレンジする中小企業から多彩なビジネスプランを募集し、優秀なプランには発表機会の提供のほか販路開拓や資金調達の支援、ビジネスパートナーとのマッチング、ビジネスプランのブラッシュアップなど、各ステージに応じて継続的にサポートすることで市内での開業や新ビジネスの発展を促進する「かわさき起業家オーディション」を4回開催した。

本事業は平成13年9月から開催しており、令和5年度で23年目となるが、今回見直しをはかり、起業家と多様な企業・団体による「協業のプラットフォーム」として本格的に再スタートした。

事業目的についてはこれまでの「スタートアップ・ベンチャーの創業支援・成長支援」に加え、協賛企業を新たにパートナーと位置づけ、「スタートアップ・ベンチャーとパートナー企業・団体との協業によるWin-Winの成長支援」、さらには「スタートアップ・ベンチャーの協業による既存中小企業等の事業再構築」の3点を実現することを柱とした。

この趣旨に賛同したパートナーは、35企業・団体となったが（令和4年度は26）これにより販路拡大・資金調達に向けた出会いの場としての機能が拡充され、プラン実現のための支援・フォローにより注力していく基盤が確立されることとなった。

かわさき起業家オーディションは、応募にあたって年齢・活動拠点・国籍など制限のないオープンなものだが、第136回では歴代最年少となる中学2年生、今井 結菜氏（麻生区）が、「かわさきビジネス・アイデアシーズ賞」「川崎市産業振興財団特別賞」受賞のほか、協賛企業より提供される関係団体賞を複数受賞した。

このほか、起業に対するフォローアップになお一層力を入れるべく、展示会への出展支援や新聞記事の投稿、紹介冊子の作成などといった広報支援、商談に繋げるマッチング支援を中心に行った。

【第136回受賞者】 *前段の女性が今井 結菜氏



【今年度の応募件数の地域別内訳】

地 域	応募件数
川崎市	27
横浜市	7
東京都	22
その他	8
合 計	64

- 応募者数は累計で2,468名、受賞者は828名となっている。
- 今年度の応募者の地域別の内訳は市内から27件、市外から37件であった。遠方からの申込もあり、愛知県などからの応募があった。

(3) 川崎市海外ビジネス支援センター運営事業

川崎市海外ビジネス支援センター（略称：KOBIS（コブス））の運営を行うとともに、当センターを拠点として海外支援コーディネータによる市内企業の海外展開支援を強化した。

市内企業の海外への販路開拓、パートナー発掘、ネットワークの構築を目的として、令和5年8月にタイ・バンコクを訪問して、現地企業と市内企業5社、総商談数19件の個別ビジネスマッチング支援を実施した。併せて、令和6年3月にベトナムのホーチミンを訪問して、現地企業と市内企業5社、総商談件数26件の個別ビジネスマッチング支援を実施した。

また、海外進出を希望する市内企業に対して、専門のコンサルティング会社と連携して海外ビジネスマッチング支援を実施した。ベトナム・インドネシア・タイ・シンガポール等の東南アジア3社（8商談）・ドイツ2社（4商談）・中国2社（5商談）の市内企業合計7社（17商談）のニーズに合わせて支援を実施した。

さらに、ITRIや日本台湾交流協会などの機関と連携し、メディア（かながわ経済新聞）の情報発信等も活用し、6社のビジネスマッチングを実施した。

国内においては、「国内商社等との輸出商談会」を令和5年11月に市内企業13社に対して国内商社等を11社招致して実施し、33件の商談がなされた。

その他、海外展開ニーズを有する市内企業の情報発信を、ホームページ等を活用して行った。（川崎市受託事業）

6 産学連携推進事業

市内中堅・中小企業と市内外に立地する理工系大学、連携機関との交流を図り、「顔の見える産学連携」を推進するため、諸事業を実施した。

主な活動として、産学連携の活動モデル“川崎モデル”と呼ばれる「産学連携・試作開発促進プロジェクト」では、大学研究機器、実験機器の試作開発ニーズを捉え、具体化し、

新技術開発、新製品開発、新分野・新事業への進出を促進した。また、製造業以外の成長分野への産学支援として、ライフサイエンス分野等への展開、大学発ベンチャー等イノベーション創出等に長けた専門家を配置することで新川崎、殿町、K-NICなどの財団拠点との事業連携を強化した。

産学間マッチング企業訪問活動等は大学研究室訪問等を含め 165 回の訪問活動等を実施した。また、「コーディネート支援・出張キャラバン隊」を通じて、中小企業の課題解決をサポートするとともに、「顔の見えるネットワーク構築」に努めた。

(1) 産学連携コーディネート事業

ア 産学連携・試作開発促進プロジェクト	計 165 回
大学・研究機関訪問等（延べ）	56 回
市内企業訪問等（延べ）	109 回
（うちマッチング回数（延べ））	31 回）
オンライン版ネットワーク交流会	1 回
	65 名登録・2,025 ページビュー
医工連携交流会	5 回

(2) 産学連携情報交流促進事業

産学連携の推進による新産業の創造、市内企業の新たなビジネスチャンスの創造等を図るため、近隣の大学、関係機関と連携しながら、次の事業を実施した。

ア 産学連携ニュースレターの発行

市内中小企業に産学連携を身近に感じてもらうことを目的に、大学の研究シーズを比較的平易に解説する「産学連携ニュースレター」を 1 回発行した。

イ 産学連携メールニュースの配信

セミナー情報、大学研究公開情報、補助金、企業支援情報を掲載する「産学連携メールニュース」（延べ 24 回配信・登録者 2500 名、通算 467 号）を配信した。

ウ 技術シーズ提供セミナー

産学連携、技術移転に積極的な大学研究者の研究シーズをオンラインにて 4 項目 19 シーズを配信した。このセミナーを通して大学の先端技術を紹介、企業の新事業展開に資する情報提供の機会を提供した。

エ 展示会への出展

産学連携・試作開発促進プロジェクト PR のため、以下の展示会へ出展した。

① 第 13 回おおた研究・開発フェア

主催：大田区、(公財)大田区産業振興協会

会期：令和 5 年 10 月 26 日（木）・27 日（金）

② 第 16 回川崎国際環境技術展

主催：川崎国際環境技術展実行委員会

会期：令和 5 年 11 月 15 日（水）・16 日（木）

(3) 新事業プロジェクト創出事業 コーディネート支援・出張キャラバン隊

中小企業の新製品・新技術開発や企業・大学等との共同研究などの新たな事業展開に対して、関東経済産業局、神奈川県産業技術総合研究所、川崎市、財団コーディネータなどで構成する支援チームを編成し、直接企業訪問を行い、新規事業展開に活用できる公的施策など最適な支援メニューの紹介・提案、技術・経営に関する課題解決のためのアドバイス支援、大学・研究機関や企業等の連携先紹介など出張型ワンストップサービスを実施した。その他、産学連携、企業間連携による戦略的新産業プロジェクトの創出に向けて、企業訪問活動を通じて有望企業を発掘し、新聞記事等で情報発信した。

また、コーディネータ及び関係機関相互の情報共有化を図り、企業へのフォローアップ支援につなげるとともに、産学官一体となって多面的な支援を提供した。

【コーディネート支援・出張キャラバン隊】 199 社（延べ 328 回）

【マッチング】 年間 100 件を実施

7 新産業政策研究事業

学識者や企業等のネットワークにより、「新産業政策研究所運営事業」を実施した。

また、「産業経済の調査研究事業」として、「川崎元気企業調査報告書の発行」、「産学官連携事例集の発行」、「川崎市内中堅中小企業経営実態調査」を実施した。

<一部川崎市指定管理事業>

(1) 新産業政策研究所の運営

ア 外国人雇用・就労支援等検討会終了後の取組

外国人材がいきいきと活躍できる企業づくりや地域社会の形成に向けた情報共有・発信の場づくりを行うため「外国人材活躍応援フォーラム」を立ち上げ、シンポジウム、セミナーを開催した。

(2) 産業経済の調査研究に関する業務

ア 企業実態調査

川崎市内企業が関心を持つ経営課題や基本的動向を把握することを目的に 2 回実施。調査対象は、財団がデータを保有する川崎市内の中堅中小企業（製造業、非製造業）。なお、本アンケート結果の詳細については財団並びに指定管理ホームページ「調査報告」にて公開した。

[調査概要]

- 第1回調査（令和5年8月）
- 調査テーマ 『新型コロナウイルス感染症-3年間の総括と今後の見通し-』
『人材の確保について』
『インボイス制度・電子帳簿保存法について』
- 有効回答企業数 428社（有効回答率 22.3%）
- 第2回調査（令和6年1月）
- 調査テーマ 『事業承継について』
『企業立地について（物件ニーズ調査）』
『デジタル化に向けた取組について』
『金融機関に求める企業価値評価項目・サステナブルファイナンス（ESG 投融資等）について』
- 有効回答企業数 371社（有効回答率 19.8%）

イ 川崎元気企業調査（川崎元気企業紹介ガイドブック）

創業を目指す方々、新分野進出や経営革新に取り組む中小企業の方々の参考に供するため、卓越した技術や製品や開発力を持つ企業、ユニークな取組みを実践している企業を訪問し、企業や経営者の歴史や横顔、技術力や成長要因を取材した。取材内容は「川崎元気企業調査報告書」として発行した。（2000部発行）

ウ 事業化、商品化事例調査

新技術や新製品開発を目指す中小企業や起業家の方々の参考に供するため、産学連携等で素晴らしい実績を残す企業を訪問し、連携に至った経緯や取組み方を取材した。取材内容は「産学官連携事例集」として発行した。（1000部発行）

8 産業振興施設の管理運営業務

8-1 産業振興会館管理受託事業

(1) 産業振興会館管理受託事業

当財団と京急サービス(株)との共同事業体として会議室、研修室、ホール、企画展示場の施設・設備の貸出業務を行ったほか、会館の設備保守、保安警備、清掃業務等を行い、適切な利用環境の維持を図った。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し様々な活動が始動してきたことにより、前年度に比べ利用率並びに利用料金共に増加し目標を上回ることができた。利用率の目標 49.0%に対し 58.4%、利用料金の目標 31,806千円に対し 38,428千円となった。

利用率を高めるための取り組みとして、会館利用団体や外部団体等の委員で構成され

るサービス向上委員会を開催した他、利用者に対する年4回のアンケート、横断的・複合的なサービスを展開する手掛かりとするため実施した施設利用者（複数日利用者等）に対してのヒアリング、156件の改善活動（目標100件）の実施等、「利用しやすい会館づくり」、「安全な会館づくり」、「効率的な会館運営」に取り組みサービスの向上に努めた。具体的には全館のトイレ内水石鹸容器の入替や、2階から3階階段の手摺新設工事の実施等である。

夜間・週末会議室等の新規利用促進のため既存利用者・団体を分析し、9月に検診実施機関285部（神奈川県及び東京都）、2月に資格試験等実施機関114部（神奈川県及び東京都）に会館サービス案内のダイレクトメールを送付した。

また、市外、県外からの新規利用者の獲得に向けては国内最大級の貸し会議室検索サイト「会議室.com」や、お出かけ情報量日本最大級のサイト「子供とお出かけ情報 いこーよ」へ当会館施設情報の掲載を行った。さらには、川崎観光ガイドブック「川崎日和り」への施設案内情報の掲載を行い広くPR活動を行った。

(2) かわさき生産性向上支援スペース（SAKURA LABO）の運営

新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の両立を図り、「新しい生活様式」に対応した働き方を促進する目的で会館3階に整備（令和3年8月27日開設）したSAKURA LABOにて、中小企業等へのテレワーク環境の場の提供、生産性向上・働き方改革に関する支援等を実施した。

また、市内初のギャラリーを持った生活介護事業所として、人と地域に開かれた事業所を開設し活動しているNPO法人studio FLATと連携し、所属する作家の艺术作品をSAKURA LABO内に展示する、協働アート活動「SDGs ART SPACE」の取り組みも継続して実施し、展示を2階カフェにも拡大した。

8-2 かわさき新産業創造センター運営事業

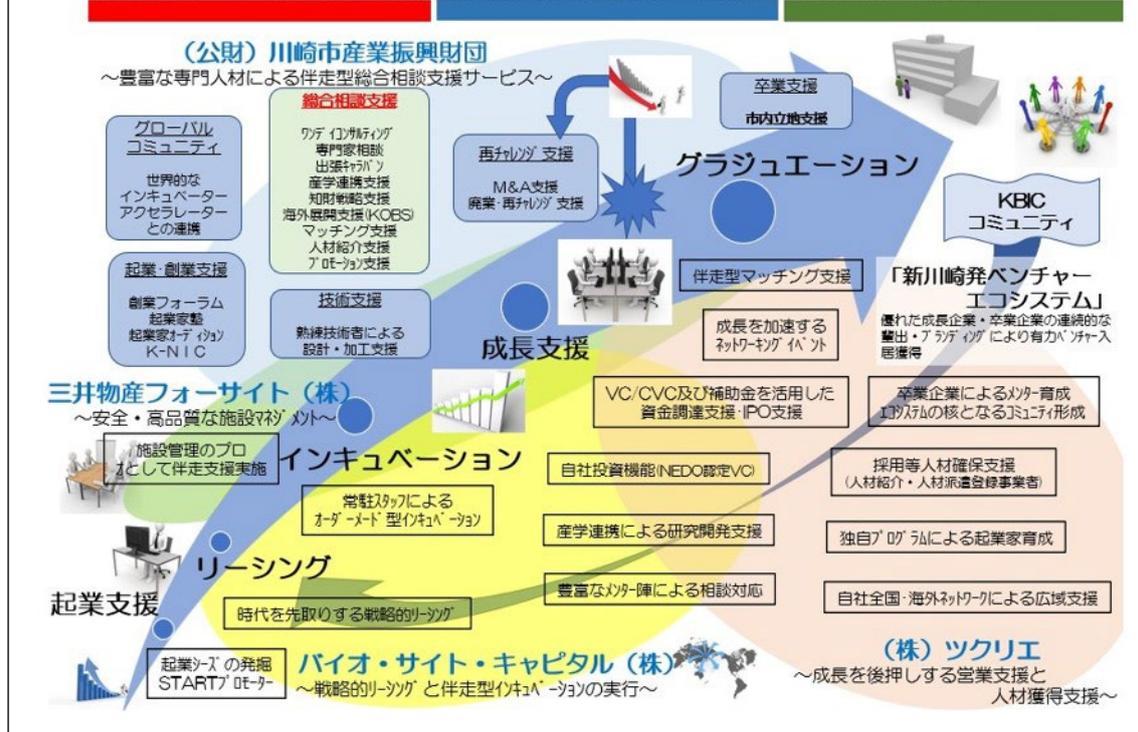
令和5年度より第5期指定管理がスタート(2023~2027年度)。第4期(2018~2022年度)に続いて次表のとおり当財団を代表団体とする「かわさき新産業創造センター共同事業体(構成団体:当財団、バイオ・サイト・キャピタル(株)、(株)ツクリエ、三井物産フォーサイト(株)の4者)」にて「かわさき新産業創造センター」(Kawasaki Business Incubation Center 略称:KBIC)の運営を行った。

 公益財団法人 川崎市産業振興財団	全体の統括・管理 基盤技術高度化支援 インキュベーション	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関とのパイプ iCONMを含む管理実績 川崎市内の中小企業・大手企業・大学との繋がり 充実した中小企業支援
 バイオ・サイト・ キャピタル株式会社	リーシング(入居募集) インキュベーション 飲食・物販	<ul style="list-style-type: none"> バイオ・ライフサイエンス分野に強み ベンチャーキャピタルとしての豊富な実績とネットワーク レンタルラボ運営、産学連携 エリアマネジメント組織の運営
 TSUCREA STARTUP INCUBATOR 株式会社ツクリエ	オープンイノベーション推進	<ul style="list-style-type: none"> IT、コンテンツ、デザイン、半導体など、ものづくり分野に強み ビジネスマッチングイベント、異業種交流会の実績 Startup 支援
 三井物産フォーサイト 株式会社	施設の維持管理・ 保守メンテ・駐車場管理	<ul style="list-style-type: none"> 高機能的な施設管理の実績 安心・安全な施設管理 クリーンルームの運営実績 三井物産グループのネットワーク活用

第4期までを「基盤整備期間」と位置づけ、令和5年度からは「発展成長期間」として「①世界水準の研究開発環境の提供」「②世界水準のイノベーション創出支援サービスの提供」「③世界水準のベンチャーエコシステムとKBICコミュニティの形成」「④地域一体となった世界水準のSDGs未来都市づくり」の4本柱を基本方針とし、入居者開拓から成長支援、そして卒業支援(市内立地)まで入居者の成長ステージに応じて切れ目のない成長支援サービスを一通りに提供する「新川崎発ベンチャーエコシステム」の形成を目指した運営を行った。

新川崎発ベンチャーエコシステム

(成長ステージに応じて切れ目のない成長支援サービスを一通貫に提供)



第5期指定管理業務の初年度となる令和5年度は、ベンチャー企業の成長支援・新分野進出支援と市内中小企業のものづくりの技術高度化支援、ベンチャー企業・地元企業と大学研究室との連携支援、地域経済の活性化を図るための各事業を指定管理者として着実に実施すると共に、入居企業等の誘致活動（リーシング）に注力した結果、施設全体（KBIC 本館、NANOBIC, AIRBIC）として年間の入居率平均は目標としていた95パーセントを達成した。

また、入居企業に対しては経営面等でのハンズオンによるソフトな支援を実施し、成長支援を推進するため、インキュベーション・マネージャー等をKBIC内に配置しており、さらに、ものづくり基盤技術支援においては、技術コーディネータを配置したうえ、市内外の企業や機関等とのネットワークを活用してセミナーや講習会等を開催し、ものづくり基盤技術高度化等の支援に取り組んだ。

更に令和6年2月8日、(株)Veritas In SilicoがKBIC入居中の企業として第1号となる上場（東京証券取引所グロース市場）を果たした。

(1) リーシング事業

共同事業体のバイオ・サイト・キャピタル(株)が担当し、かわさき新産業創造センターのプレゼンスの向上に向け「国際モダンホスピタルショウ 2023」「第4回量子コンピューティング EXPO 秋」に当施設に入居する企業とともに参加し、入居企業の

アピールと全国的な誘致活動を積極的に行った。

入居状況は11社の新たな入居があり、年間平均入居率は目標としていた95%となった。入居時から卒業（退去）をイメージした伴走支援を行うなかで金融機関や不動産業者、川崎市立地支援担当（経済労働局）などとも情報交換を密に行うことで市内立地情報を入居者にタイムリーに提供するなど退去企業の市内立地誘導にも努めた結果、退去は9社のうち退去後に市内立地した企業は4社（市内立地率44%）となった。

入居者の事業分野の構成としては、令和6年3月末現在、ライフサイエンス（15社）、ナノテクノロジー（4社）、環境・エネルギー（6社）、ロボティクス・製造基盤技術（12社）、その他（5社）など42企業、慶應義塾大学の5研究室、4大学ナノ・マイクロファブ리케이션コンソーシアムとなっている。

(2) インキュベーション事業

インキュベーション・マネージャー（財団：2名、バイオ・サイト・キャピタル㈱：2名）を配置して、入居企業に対する経営・財務、マーケティング、技術開発等についての相談・指導を行い、入居企業のサポートを実施した。特にベンチャー企業にとって課題となる資金調達においては各種の補助金等の採択に向けた事業計画作成等の支援を行ったほか、VC、CVC等の紹介を行った。

また、財団のワンデイコンサル等の支援メニューを積極的に活用し、入居企業が抱える様々な課題（財務、法務、労務等）の解決に向けての支援も行った（899件）。

(3) オープンイノベーション事業

共同事業体の㈱ツクリエ（コーディネータ4名）が担当し、大手企業やVC、CVC等との資金調達ピッチの開催やビジネスマッチングイベントを実施して、資金調達や市内外の企業との情報交換と交流の機会を創出、入居企業の事業拡大、新事業の創出などの支援を行った。

また、新川崎地区における産業集積とポテンシャルを活かし産学官連携による新たな産業創出を目指すため、同地区内に立地する企業や大学等（KBIC入居者を含む）により2012年に組織された「新川崎地区ネットワーク協議会」の事務局について、令和5年度より指定管理事業の一環として共同事業体が担うこととなり、交流会やマッチングイベント等を行った（18回）。

(4) 基盤技術高度化支援事業

技術コーディネータを配置し、施設内の「ものづくり工房」や精密加工機、CAD/CAMシステムを活用した講習会、研究会等を開催したほか、市内外の企業や機関とのネットワークを活用しての講習会等を開催した。

基盤技術高度化支援では、仕上げ作業、はんだ付け作業、工作機械などの講習会を

開催し、ものづくり人材の育成を推進するとともに、三次元精密測定装置や高度な加工が可能な CNC/普通旋盤等の、入居企業や市内企業による試作・開発などにおける活用を促進し、これらを通じて市内中小製造業の高度化を支援した（135件）。

(5) ものづくりマインド醸成事業

青少年に科学技術に親しんでもらうことを趣旨とした「ものづくりマインド醸成事業」として、地域住民に向けたイベント「第15回 科学とあそぶ幸せな一日」を川崎市幸区役所、慶應義塾大学等との共同事業として令和5年8月26日に開催した。KBIC を会場として開放して当日の事務運営を行ったほか、KBIC 入居企業など新川崎地区に拠点を置く企業や団体等にも協力頂き、当日は小中学生を中心に約 1300 名の来場があった。

また、令和6年3月25日にはNPO 法人おもしろ科学たんけん工房と太陽誘電㈱とのコラボイベントである「プログラムで光る北斗七星」の運営協力を行った。同イベントはマイクロコンピューターの仕組みや役割について学びながら、実際に LED とマイクロコンピューターを組み合わせた電子回路を作る科学工作教室であり、定員 16 名に対して 17 名の参加応募（1名は当日欠席したため 16 名にて実施）があった。

また、かわさき市民アカデミー地域協働講座に協力。「かわさきのまちづくり～過去・現在・未来～」と題して川崎におけるスタートアップ企業・ベンチャー企業の動向や新川崎地区のまちづくり等に関して講義を行うとともに、入居企業にも協力を頂いて受講生の KBIC 見学を実施した。また「地域社会に貢献している川崎の会社と人々」と題して KBIC 入居企業であるオールテック㈱に登壇頂いた。

(6) かわさき新産業創造センター管理運営

共同事業体のうち当財団が担当している施設管理業務として、KBIC 利用料金等収入の管理、光熱水費を始めとする共通の経費の支出、必要な什器備品の整備等で、入居者に対する快適で安全な執務環境面でのサービスの向上を主眼に置いた運営に努めた。

また、地域と一体となった取り組みとして、新川崎にある障がい者就労支援施設「セルプきたかせ」によるパンの販売（毎月第3金曜日）や幸区の農家による野菜直売（毎週木曜日）、新川崎にある NPO 法人 studioFLAT と連携して障がい者アートの展示や障がい者×ソプラノ歌手による SDGs コンサートを行なった。

8-3 キングスカイフロント シェアオフィス施設管理

殿町国際戦略拠点 キングスカイフロントに立地するリサーチ・ゲート・ビルディング
殿町2内に整備したシェアオフィス「殿町コネクト」の管理運営を行った。

場 所	リサーチ・ゲート・ビルディングⅡ 1C
面 積	約50㎡
座 席 数	13席（固定席2席を含む）
利 用 時 間	平日 午前8時00分から午後10時まで 土曜日 午前8時00分から午後6時まで
利用対象者	KSFに研究ラボを既に持っており、事務用スペースを希望する団体
契 約 件 数	5団体登録（6席使用中） 前回報告から2団体（3席）増

9 クラスターマネジメント推進事業

殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおけるクラスター運営事業、エコシステム基盤づくり事業、キングスカイフロント拠点活動活性化支援業務を実施した。

(1) クラスタ運営並びにエコシステムの形成に必要な企画・調整に関する事業

キングスカイフロントネットワーク協議会会員として、エリアの活性化と周辺地域との交流促進に向けて定期的な意見交換会に参加するとともに、夏の科学イベント2023 実行員会にも参画し、共同イベントを通してエリアのPRを行った。

- ◆ 夏の科学イベント2023（令和5年8月3日（木）開催）への参加
- ◆ キングスカイフロントネットワーク協議会への参加
（総会1回、理事会2回、総務企画部会4回、交流連携部会5回）
- ◆ LiSE 入居者連絡会議（毎月開催）への参加
- ◆ iCONM イノベーション推進会議（毎月開催）、広報委員会（隔月開催）への参加

①令和5年度第1回キングスカイフロントクラスター運営会議

6月に総会を開催した後、財団本部、オーガナイザー、川崎市役所臨海戦略本部を交え、今後のクラスター運営の方向性を討議した。以降、川崎市役所臨海戦略本部とのクラスター運営に関する調整会議を2回開催した。

②競争的資金等の獲得に向けた連携協力

ナノ医イノベーションセンター（iCONM）が採択された文部科学省所管の「令和4年度共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」に参画メンバーとして協力し、合同会議にて拠点活動の説明を行なった。

株式会社イクスフローが神戸大学と連携して取り組む研究開発事業につき、日本

医療研究開発機構所管の「革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）スタートアップタイプ」への応募対応に協力、採択に至った。

(2) キングスカイフロント及びその周辺地域の外部の機関等との窓口に関する事業

KSF のエリア紹介をはじめ、拠点間連携、企業の協業につながる視察の受け入れや、視察希望先の企業紹介を行った。視察受け入れ件数：17 件

	期日			来訪者	人数
1	令和 5 年	4 月	17 日	FDA	4
2	令和 5 年	4 月	20 日	Biocom	2
3	令和 5 年	5 月	24 日	Selvita S.A. , Park Life Science	4
4	令和 5 年	6 月	6 日	北陸先端技術大学院大学	2
5	令和 5 年	8 月	8 日	商工中金	3
6	令和 5 年	9 月	7 日	韓国視察団	4
7	令和 5 年	9 月	15 日	大阪府商工労働部	5
8	令和 5 年	9 月	19 日	株式会社NIDEC	6
9	令和 5 年	9 月	29 日	北陸先端技術大学院大学	1
10	令和 5 年	10 月	12 日	台湾の政府関連機関TJSCP	25
11	令和 5 年	10 月	13 日	オランダ大使館（オランダ企業）	10
12	令和 5 年	11 月	9 日	横浜市立大学 増田特任教授一行	5
13	令和 5 年	11 月	15 日	一般社団法人 表面技術協会青年経営技術懇話会(エピテック工業引率)	30
14	令和 5 年	11 月	27 日	沖縄県庁、沖縄科学技術振興センター	6
15	令和 5 年	12 月	13 日	東京応化工業株式会社・横浜銀行	12
16	令和 5 年	12 月	15 日	きらぼし銀行	1
17	令和 5 年	12 月	19 日	東京商工会議所大田支部・大田区産業経済部	14

(3) 広報に関する事業

<域内のエコシステム間の交流、情報共有の促進>

a. ニュースレター (i-Newsletter) の配信

第 1 回：令和 5 年 4 月配信

Shimadzu Tokyo Innovation Plaza 竣工
RINK FESTIVAL 2023 開催
第 1 回第 1 回 KSF サイエンスフォーラム開催等

第 2 回：令和 5 年 8 月月配信

サイバックス医療イノベーションベース A 棟運用開始
国立医薬品食品衛生研究所、神奈川県立保健
福祉大学、ナノ医療イノベーションセンターのニュース

第 3 回：令和 5 年 10 月配信

「株式会社ナレッジパレットがトランスクリプトーム解析で新発見！」



第4回：令和6年1月配信

「国立医薬品職員衛生研究所本間所長インタビュー」等

b. 広報媒体の制作

- キングスカイフロントを紹介するリーフレットの制作

持ち運びに便利のように薄型にするとともに、企業紹介欄にQRコードを掲載し、ホームページとリンクさせた。

日本語版 3,000部 英語版 1,000部 56機関を掲載

キングスカイフロント紹介パンフレット 日本語版

キングスカイフロント紹介パンフレット 英語版



【立地機関紹介冊子】

【キングスカイフロント紹介リーフレット】

c. BioJapan2023 への出展

<BioJapan2023 の概要（主催者発表）>

日 時：令和5年10月11日（水）～13日（金）

会 場：パシフィコ横浜

出展企業数：840社

来場者数：約20,000名

参加国・地域：アイスランド/アメリカ/アルメニア/イギリス

イスラエル/イタリア/インド/オーストラリア

オーストリア/オランダ/カナダ/韓国/キプロス

ジョージア/シンガポール/スイス/スウェーデン

スペイン/タイ/台湾/中国/デンマーク/ドイツ

ニュージーランド/ノルウェー/フィンランド

フランス/ブルガリア/ベルギー/ポーランド/香港

マレーシア/ヨルダン/リトアニア/日本

（以上35か国・地域）

<横浜・川崎パビリオン>

- 出展企業総数：30社（うち立地機関：6社）

- 公的機関総数：6機関

- ・出展ブース総数 34ブース（うち立地機関：7ブース分）
 - ・面談件数 11 件、ブース訪問者数 約 100 人
- d. YouTube チャンネル「KingSkyFront Lifescience Portal」の運営
- ・国内外への広報ツールとして、キングスカイフロント PR 動画やイベントのアーカイブを配信した。 <https://www.YouTube.com/channel/UCcfwNZ7AMRYz3BHXry18nXg>
- e. エリア内情報交流サイト「KSF イン트라ネット」の創設と運営
- キングスカイフロントの就業者向けに、補助金・イベント・アカデミアのシーズ情報などを掲載する Web サイトを運営した。希望する立地機関にはアカウントを配布しており、それぞれのイベントや情報を発信している。また、サイト内にはデジタルライブラリーを設け、大学シーズ集の掲載をした。同ライブラリーは、殿町サロンに配架する業界誌や調査報告書なども検索可能とし、研究者がキーワード検索で書籍を引き当てられるように設計している。 <https://king-skyfront.ne.jp/>
- f. 学会産学連携セッションにおけるプロモーション
- 第 72 回高分子討論会 産学連携セッション（9 月 26 日～28 日 香川大学）にブース出展し、拠点における研究開発の取組について紹介した。

(4) 事業化支援に関する事業

① シーズ・ニーズ調査および個別マッチング

【キングスカイフロントをはじめ市内に立地するライフサイエンス関連機関の
シーズ・ニーズ等に関する調査業務】

事業部職員が各機関に伺い直接ヒアリングを行うこととしたが、新型コロナウイルス感染防止の面からオンラインを希望した機関についてはオンラインによりヒアリングを実施した。

ヒアリング・調査実施件数	延べ 127 件
（内訳） KSF 立地機関	延べ 67 件
市内の立地機関（KSF 内を除く）	延べ 7 件

【市域にとどまらない広域でのライフサイエンス分野におけるシーズ・ニーズ調査】

隣接の大田区をはじめ、東京都内、神奈川県内など川崎市外の産学官金のプレーヤーに対しても積極的にヒアリングを実施した。

【ヒアリング実施件数】 延べ 30 件

【個別マッチング】

KSF を中心に市内企業等との協業・連携をめざして個別マッチングを実施した。

個別マッチング件数	延べ 22 件
（内訳） キングスカイフロント内	延べ 11 件
市内外（KSF 内を除く）	延べ 11 件

② サイエンスカフェ、ビジネス交流会の開催

- ・サイエンスカフェ(Tonomachi cafe)を5回(第49回～第53回)開催した。
- ・ビジネス交流会の開催

サイエンスカフェや「中分子創薬に関わる次世代産業研究会 (IMD² 3回開催)」の終了後にネットワーキングの時間を設けるほか、KSF サイエンスフォーラム、Tonomachi Outreach Communication、大田区交流イベント (KSF 拠点活動活性化支援業務を活用) などにおいてもビジネス交流の機会を作り、6回開催した。

③ 投資銀行、VC、エンジェル投資家等への紹介

・ベンチャー企業などに対してVCなどを紹介することにより、資金確保に向けての支援を行った。

期 日	面 談 先	連携金融機関
令和5年6月1日	A社	サイセイベンチャーズ

(5) 国内外のクラスター等との連携に関わる事業

国内外のバイオ・ライフサイエンスを中核とした産業拠点、ビジネス拠点との意見交換を行うとともに、協働・連携した事業を実施した。

① 市内企業とのネットワーキング、ビジネスマッチング

立地機関における研究開発資材等の特注対応・調達に向けた市内企業とビジネスマッチングまたは市内企業からの情報収集に努めた。

また、それを利活用してネットワーキングに取り組んだ。例えば、東芝株式会社保有の脂質ナノパーティクル (LNP) 調製最適化技術をナノ医療イノベーションセンターに紹介するなど、技術情報の相互利用に繋がる対応に努めた。

聖マリアンナ医科大学デジタルヘルス共創センターが主催する「未来の医療を作る“医療人 2030” 育成プロジェクトの広報を行なった。

② 国内クラスター、海外クラスターとの拠点間連携

a. エリア間連携

- ・ 羽田地区

令和6年3月4日 市立川崎病院と羽田 HI-City 交流会を実施した。

(KSF 拠点活動活性化支援業務を活用)

- ・ 関西エリア

令和5年12月1日、12月26日に神戸医療産業推進機構等の拠点を訪問し、情報交換・意見交換を実施した。

日 時：令和5年12月1日 (金)

会 場：クリエイティブラボ神戸

内 容：バイオクラスターとして先行する関西地区のバイオクラスターを訪問・見学し、実務者との意見交換を通じてクラスターマネジメントの在り方につき学習・習得の機会とした。併せて、当該地区の立地機関である、藤森工業株式会社および ViSpot 株式会社を訪問し、立地機関の立場からクラスター活動への

取組や期待について情報収集した。

・ 沖縄エリア

沖縄インキュベーション施設視察

日時：令和5年8月18日（火）～19日（水）

場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）、沖縄ライフサイエンス研究センター（OLSRC）

内容：

OISTの産学連携システム、インキュベーション事業（R6年度新規事業）についてOLSRCにおけるライフサイエンスの創出、施設運営について

沖縄のライフサイエンスシーズ情報収集

沖縄県産業振興公社を通じて、沖縄県における産学連携支援制度や沖縄県内の大学が保有する研究シーズの提供を受け、今後の連携について意見交換を行った。また立地機関の面談設定をサポートした。

キングスカイフロント視察

日時：令和5年9月21日（木）

場所：川崎市キングスカイフロントマネジメントセンター（RGBⅡ）

内容：キングスカイフロントの紹介、インキュベーション施設の紹介

・ 北陸エリア

Matching HUB Hokuriku 2023に参加

日時：令和5年11月17日（木）～18日（金）

会場：ANAクラウンプラザホテル金沢

主催：北陸先端科学技術大学院大学

内容：北陸発の産学官金連携マッチングイベント

基調講演、セミナー、パネル展示、Matching Pitchなど

開催報告：

<https://www.jaist.ac.jp/ricenter/jaistnet/matchinghub2022/Archive2022.html>

③ 主な国内機関との連携

湘南ヘルスイノベーションパーク（アイパーク）と連携してサイエンスセミナーを開催した。

○令和5年9月21日（木） アイパークサイエンスカフェ

○令和5年11月17日（金） Tonomachi Outreach Communication Vol.3（再掲）

・ ファルマバレーセンター

令和6年2月8日（木）にファルマバレーセンターおよび県立静岡がんセンターを訪問し、視察・情報交換・意見交換を実施した。

④ アカデミアとの連携

慶應義塾大学、東京工業大学、神奈川県立保健福祉大学、横浜国立大学、順天堂大学、東北大学、香川大学、長崎大学、北陸先端技術大学院大学、沖縄先端技術大学院大学と意見交換や情報共有を行った。また、北陸先端技術大学院大学のシーズセミナーを2回開催した。(再掲)

⑤ 海外クラスター、大使館、支援機関等との連携

サンディエゴを拠点とし、世界最大級のバイオ関連業界団体である BIOCOM が来訪し、お互いの事業紹介、意見交換を行った。またニュースレターの配信などを通じて BIOCOM 会員に KSF 情報の発信も行った。

- ・フランス最大級のライフサイエンスクラスターGenopole と令和5年10月11日(水)～13日(金)に開催された BioJapan にて面会し、意見交換を行った。また、連携協定を締結に向けた協議を開始した。

- ・オランダ王国大使館及びオランダ企業の KSF 視察を受け入れるとともに意見交換を行った。

- ・日欧産業協力センター令和5年5月30日(火)に面談し、意見交換を行った。

- ・令和5年9月7日(木)に、韓国科学技術企画評価院及び韓国科学技術政策研究院の視察を受け入れるとともに、キングスカイフロントと同様に韓国の大都市圏にある洪陵(ホンヌン)クラスターとの比較などの意見交換を行った。

- ・令和5年10月12日(木)に台湾から財団法人資人訊工業策進会及び台日産業推進センターが来訪し、ナノ医療イノベーションセンターを中心に視察し、意見交換を行った。

(6) キングスカイフロント及びその周辺地域への研究者やスタートアップなどの集積及びその起業・経営支援や事業拡大に関する事業

KSF における新規ビジネスの継続的な創出をめざし、シェアオフィスを開設した。また、IMD²については、川崎市とその運営方法を協議し、会員制を維持しつつも、創薬ビジネスにおける支援サービスやニューモダリティの先端技術紹介とネットワークキングのセミナーとして開催をした。

さらに、KSF におけるイノベーション・エコシステムの形成と世界水準の新産業の継続的な創出に向け、iCONM 内にスタートアップを対象としたラボを運営し、インキュベーション事業を展開した。

① シェアオフィスの管理運営

「8-3 キングスカイフロント シェアオフィス施設管理」に記載。

② 交流スペース「殿町サロン」の運営及び利活用

令和5年8月に LISE1 階の部屋を交流スペース「殿町サロン」として改修し、「Tonomachi Outreach Communication」として、法務相談会、インボイス制度相談会、税務相談会、知財相談会、アカデミアのシーズ紹介イベントを開催した。

(参加者総数 127 名)

また、室内に立地機関が閲覧できるよう大学シーズ集や業界紙などを配架するほか、立地機関が開催するイベントや会議室として貸し出しも行っている。



「シーズ紹介セミナーの様子」

10 ナノ医療イノベーションセンター運営事業

「ナノ医療イノベーションセンター (iCONM※1)」では、川崎市殿町地区「キングスカイフロント」の中核拠点として、研究活動及び諸事業を推進し、研究活動成果の一部として、国内外合わせて 10 件の特許出願を行った。

研究拠点の適正な管理運営のため、センター開設時から一貫して各種専門委員会を設置し、安全管理や法令遵守の意識向上と体制強化、研究環境の整備や研究資源の最適配分に努めている。

対外的には、オンラインも活用して市民公開講座やシンポジウムを開催し、また市内・市外の小中高生 641 名の見学受け入れや、対面ワークショップを実施するなど、一般へ開かれた学術機関を目指して活動した。

取材や視察、セミナー参加者などの総数は、オンラインによる対応も含めて最終的に 142 件、2,585 名に上った。この他、施設利用希望者に対しては随時案内を行っている。

研究活動では、体内病院の構築を目指した研究開発と成果の社会実装を進めるとともに、2022 年秋に採択を受けたプロジェクト CHANGE (※2) において、深刻化する少子高齢社会の課題を解決するために、主に「ケア技術」と「老化抑制研究」のイノベーションに向けた活動を実施している。ケア技術については、川崎市看護協会他の参画機関との連携で「看民工学」と呼ばれる「民を看る工学」に視点を移した研究を進めた。老化抑制研究では、体内病院の要素技術として培ったナノマシン研究を活かして、老化細胞を検出し、除去する技術の開発を目指し、本分野の第一人者である東京大学医科学研究所の中西真所長とも連携して基盤研究を進めた。また、さらなる研究活動の拡充に向け、日本学術振興会の科学研究費助成事業、日本医療研究開発機構 (AMED) の公募事業などの採択を受けた研究を推進した。

※1 iCONM: Innovation Center of NanoMedicine

※2 CHANGE: 文科省/JST 共創の場形成支援プログラム 川崎拠点「レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点 (Center of Healthy And Innovation with Global Ecosystem)」

(1) ナノ医療イノベーションセンター施設管理・研究支援事業

ア 特許出願・登録数

国内 4 件、海外 6 件の計 10 件を新たに特許出願し、この他国内 4 件、海外 2 件が特許登録され、商標 1 件が国内登録された。

イ 視察、見学者の受入

新型コロナウイルスの影響が収束に向かう中で、引き続き来訪者の数を制限する一方、セミナーの開催や取材対応などをオンラインで実施した。国内外の企業、団体、教育機関、政府関係機関から 142 件、2,585 名の視察・見学の受入を、対面とオンラインの併用にて行い、センター及び研究内容についての広報を行った。

ウ 市民公開講座の開催

iCONM 市民公開講座を 3 回開催し、延べ 164 名の参加があった。「訪問看護師って何をする人？訪問看護ステーションってどんなところ？」、「看護現場のリアルからつかむ工学連携のヒント」と題し、看護現場と市民をつなぐことで、後期高齢化社会に向けた看護・ケア社会に対する共感醸成と社会課題解決に向けた情報提供を行った。また、iCONM の中心的な研究であるナノ医療の進捗について「ナノマシン研究の最前線」と題して 3 名の研究者が講演し、多くの参加者から高い関心が示された。

エ 市民向け研究広報活動の実施

小学生がサイエンスに触れる機会の創出等を目的とした川崎市の企画「キングスカイフロント夏の科学イベント」において、iCONM の研究紹介を含めた体験型イベントを実施し、96 名の児童を受入れた。イベント終了後のアンケートでは参加者、保護者らの高い満足度を確認できた。また、宮前市民館で開催された宮前区主催の地域包括ケアシステム推進イベントや、麻生区主催の地域包括ケアシステム推進イベントで、プロジェクト CHANGE の活動を紹介した。

オ 学術セミナーの開催

国内外の研究者を登壇者に招き、前述の市民公開講座よりさらに専門性・学術性の高い内容のセミナーを 7 回開催した。

カ 成果・取り組みのプレス発表や報道実績

iCONM/CHANGE の認知度およびレピュテーションの向上に務め、また研究成果を国内外に広く報じる目的で、日英文でのプレスリリースやイベントへのメディア誘致を行うとともに四半期ごとにニュースレターを発行し、積極的な情報発信に努めた。今年度に 4 回開催した広報委員会には、川崎市、産業振興財団（産業支援部、クラスター事業部、KBIC、iCONM）の広報担当者も出席し、それぞれの活動やイベント情報の共有を行うことで、広報シナジーの最大化を図った。また今年度は、論文

発表に関する報道のみならず、市民や看護関係者、高校生との交流も継続して実施した結果、総計 340 報のパブリシティを獲得できた。

キ 職員交流イベントの実施

インナーコミュニケーションの活性化を目指し、中国、カナダからの研修生、ベトナム出身の研究員を交え職員同士のオンライン交流イベントを 3 回実施した。

(2) 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)

ア 令和 4 年 10 月 25 日に採択された「レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点」において、以下の 5 つの研究開発課題に沿って研究を進めた。

課題 1：健康みまもりセンシングシステムの開発

課題 2：生体 I/O デバイスによる優しい医療介入技術の開発

課題 3：老化を診断・制御するスマートナノマシンの開発

課題 4：長寿イノベーションの実現に向けた市民啓発と実証フィールド構築

課題 5：長寿イノベーションの社会実装

更に、2 件の追加支援に採択され、①課題 3 で進める身体機能の衰えを遅らせるための研究開発と産学連携による社会実装の戦略的な推進、及び、②新たな研究開発課題を発掘し、イノベーションを起こすことができる人材の育成に取り組み、拠点ビジョン実現の加速・充実化を進めた。



イ プロジェクト CHANGE 全体会議の実施

令和 5 年 7 月にプロジェクト CHANGE の第 2 回全体会議を、島津製作所東京イノベーションプラザの大ホールにおいて、2 日間に亘り開催した。1 日目は、課題 1～3 の発表が中心となり、それぞれの課題ごとにサブテーマの進捗と関連する研究者をパネリストとしたパネルディスカッションが行われた。2 日目は、前日の振り返りに続き、課題 4～5 および研究推進機構の取組みについて発表が為された。

更に、令和 6 年 1 月にプロジェクト CHANGE の第 3 回全体会議を同所にて開催した。合計 123 名が出席し、課題 1～5 の各リーダーと関連する研究者、研究推進チームより進捗報告を実施。また、若手研究者によるポスターセッション（ショートプレゼンテーション）を実施し、26 件の発表から 3 件をポスター賞として表彰した。



ウ プロジェクト CHANGE リトリート合宿の実施

CHANGE 参画メンバーの、さらなる結束を強める目的で、1泊2日の合宿を神奈川県葉山町にある「湘南国際村センター」で実施。外部講師による講演2題と、6グループに分かれてのワークショップ（テーマは「バックキャストिंग」と「デザイン思考」）を行った。本リトリートを通して、異なるバックグラウンドを持つ者同士が、大いに学び、大いに議論し交流を深めた。



エ プロジェクト CHANGE 第2回シンポジウムの開催

令和5年12月に第2回 CHANGE シンポジウムを川崎市産業振興会館とオンラインでハイブリッド開催した。プロジェクトが目指す「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」を実現する上でのひとつの柱となる「老化制御」を第1部に、研究成果の社会実装で創出しようとしている「ケアテクノロジー産業」を第2部にあつらえた本シンポジウムには、医学・工学系研究者のみならず、医療関係者や市民を含む幅広い領域から257名が参加した。



集合写真

第1部 基調講演
東京大学医科学研究所
中西 真 所長

第2部 基調講演
経産省 医療福祉機器産業室
渡辺 信彦 室長

(3) 科学研究費等による独自研究、受託研究、企業等との共同研究の推進

ア 科学研究費助成事業

独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の事業である科学研究費助成事業に継続的に申請し、採択を受けている。今年度は新規5件（内代表研究2件、分担研究3件）、

継続 14 件（内代表研究 7 件、分担研究 7 件）の計 19 件の研究課題を推進した。

- ・基盤研究 14（内代表研究 6 件、分担研究 8 件）
- ・若手研究 1（代表研究）
- ・挑戦的研究（萌芽）2（内代表研究 1 件、分担研究 1 件）
- ・研究活動スタート支援 1（代表研究）
- ・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)） 1（分担研究）

イ 共同研究事業

民間企業等との共同研究につき新規 2 件、継続 1 件を実施した。

ウ 日本医療研究開発機構（AMED）事業

新たに採択された「次世代がん医療加速化研究事業」および、昨年度以前より継続して取り組む「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業」、「創薬基盤推進研究事業」、「先端的バイオ創薬等基盤技術開発事業」、「肝炎等克服実用化研究事業（B 型肝炎創薬実用化等研究事業）」を推進した。

(4) その他、主な出来事など

ア 片岡センター長 向井賞受賞 2023. 5. 22.

1980 年代から一貫して薬物送達システム（DDS）の開発に取り組み、親水性の高分子鎖と疎水性の高分子鎖とを連結したブロック共重合体の分子設計とその秩序立った会合体（高分子ミセル）形成に基づいて、抗がん剤や核酸医薬の DDS として臨床に用いられるまで数々の薬物運搬体の創製に成功したことが評価された。

イ ナノ医療及び看護ケアイノベーションの推進と普及に関する基本協定を東京大学と締結 2023. 5. 31.

川崎市とともに、ナノ医療及び看護ケアイノベーションの推進と普及に関する基本協定を東京大学と締結した。これにより、三者は世界中に広がる医療とケアに関する多様な学術や技術、モノ、人材といった資源を循環させながら融合し、イノベーションを創出する仕組み（グローバルエコシステム）を形成するなどして、令和 4 年 10 月に文科省/JST に採択された COI-NEXT 川崎拠点（プロジェクト CHANGE）と連動する健康寿命の延伸と新産業の創出に向けた取り組みを推進する。

ウ 片岡センター長 クラリベイト引用栄誉賞受賞 2023. 9. 19.

片岡センター長が、世界中の受賞者 23 名のひとりに選ばれた。片岡センター長は化学領域での受賞となり、薬物送達技術、特に核酸医薬や mRNA など、核酸分子の送達に関して世界をリードする研究者であることが、過去 30 年間におよぶ膨大な論文調査から明らかとなり受賞に至った。

11 インキュベーション事業

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) にて、iCONM の研究施設を活用した研究支援と、事業連携協定を締結した米国 BioLabs 社とともにスタートアップの成長支援を実施した。

(1) 入居スタートアップ企業の事業成長支援

ア 入居企業紹介のためのプレスリリース

① RDiscovery, LLC : 令和5年6月1日発表

※同日に日経オンライン、6月2日に日経新聞神奈川版で記事掲載 (別紙)

② (株)フェロトキュア : 令和5年9月26日発表

※同日に医薬通信社で記事掲載 (別紙)

イ 入居者用オフィス備品、実験ラボの整備状況

① オフィスエリアの未整備部分備品調達 (令和5年9月22日完了)

② 経済産業省の「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」補助金によるベンチ・機器等の調達 (令和6年1月30日完了)



購入物品 : ラボベンチ 14 台、RT-PCR(x2)、ThermalCycler (x2)、NanoDrop(x2)、iBright、Varioscan(x2)、Sorvall ST 8FR、Freezer (-80C) (x3)、Freezer(-30C)、Refridgerator、超純水製造機、Voltex Genie2、Mini-7K、Digital mini Rotator、Digital locker、劇毒物保管庫、試薬棚、Wifi ネットワーク構築、電子錠

(2) ライフサイエンス・バイオに特化した専門家との接続

○創薬系知財専門家との知財戦略面談の開催

○製薬企業 OB との事業相談の面談の開催

(3) BioLabs とのイベントを通じたスタートアップの事業開発支援

ア BioLabs 社との定期ミーティング

入居スタートアップのリクルーティング、スタートアップが成長しやすい環境・コミュニティ構築のためのイベントの企画（ウェビナーコンテンツの議論や講師の選定、ピッチイベントの設計など）、スポンサーシップ契約のための議論を主に実施。BioLabs は欧米にてスポンサー企業を獲得しているが、日本の商流ルールを鑑みたスポンサー契約の作り方を不定期に議論。

イ BioLabs 社との対面イベント・ウェビナーの開催

○第1回ネットワークイベント（令和5年10月12日(木)）

“Building Startup Community in King SkyFront” 参加者：58名

○第3回ウェビナー（令和5年11月29日(水)）

“Scale your innovation to the global stage” 参加者：50名

○第2回ネットワークイベント（令和5年12月15日(金)）

“Lesson learned from startups at the global stage” 参加者：38名

○Webinar # 4（令和6年2月22日(木)）

“Crafting a winning pitch “ 参加者：43名

○Evotec ネットワーキングイベント（令和6年2月29日(木)）「How to transition from Academia to Industry - turning VC funded academic collaborations into a startup」 参加者：21名

○ピッチイベント（3月14日(木)）@iCONM「Global life-science pitch 2024」 参加者：81名

(4) その他業務執行状況

ア 広報関係

① 募集チラシ

※令和5年6月更新作成

スペースタイプ	月額利用料	スペースタイプ	月額利用料
大規模ラボスペース	300,000 JPY/mo	a. 5名メンバーシップ	100,000 JPY/mo
中規模ラボスペース	200,000 JPY/mo	b. 4名メンバーシップ	80,000 JPY/mo
		c. 3名メンバーシップ	60,000 JPY/mo

② 「BIO International Conference」(令和5年6月7日～9日ボストンで開催)
目的: BioLabs との交流を深め、今後も事業連携をスムーズに進めるための関

係づくりを行う。また、ボストンエコシステムの視察を通じて、インキュベーターの露出を増やし事業のアピールを進めるとともに、川崎におけるスタートアップエコシステム形成の参考にする。

イベント概要：BI02023は、あらゆるバイオテクノロジー関連製品・サービスを対象にしているが、大半を占めたのは医薬品関連。スタートアップと大手製薬企業等がパートナーリングする機会としては世界最大規模である。

日本のスタートアップ動向：スタートアップ5カ年計画の作成、前年比投資額の増加など、日本のエコシステムはここ数年で一段と成長してきているが、グローバルで見るとその成長度合い（傾き）はまだまだ高くない。むしろ、各国の成長を見ると、相対的には落ちてきている印象を持った。

BIO International Conference を終えて：

日本のスタートアップはグローバルな露出機会がとても少なく、現状日本ではJETROやCICが実施している、数日間渡米するプログラムへ参加する程度。「孤立」という言葉が相応しい国に



なってしまう。そこで、iCONM with BioLabsには、入居者に対してグローバルな露出を常に推し進める。グローバルピッチやアクセラレーションプログラムへの参加を促す。

③「HVC KYOTO 2023」（令和5年7月6日～7日京都リサーチパークで開催）

HVC KYOTO 2023：ヘルステック及びバイオテックスタートアップ14社のピッチイベントに参加し、スタートアップ・VC・アクセラなどの聴衆とのネットワークワーキングを行った。特に、以前から（リクルーティングのために）コンタクトしていた株式会社レグセルとの対面で入居に関するディスカッションをした。

京都、大阪の訪問機関について：

大阪大学にてペリオセラピア株式会社と対面面談し、改めて事業の説明と入居までのプランを提案した。ペリオセラピア社は補助金の申請時に事業計画へiCONMの入居を記載するとのこと。さらに、大阪大学ベンチャーキャピタル（OUVC）社長と対面面談し、OUVCが出資するスタートアップのポートフォリオ（ペリオセラピア社を含む）へiCONM with BioLabsの紹介をお願いした。ポートフォリオ会社へのコンタクトも了解いただいた。

④ウェブリ스팅広告の実施、HPの改修

イ 外部補助金等の獲得状況

- ①東京都の「多様な主体によるスタートアップ支援展開事業」へ応募（不採択）
 - ②科学技術振興機構委託研究事業の共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)「次世代を担う人材育成支援」補助金採択による出張研修（1月31日(水)～2月10日(土)の日程で仏・独・米国の4都市拠点インキュベーター等を訪問）
- ・研修概要：

川崎市産業振興財団は2022年にBioLabsとアジア初のシェアラボ拠点として連携を開始した。本研修ではBioLabsの米国拠点及び欧州3拠点を中心に、欧州エコシステム拠点を視察見学し、拠点運営者とエコシステムについて議論することで、各都市の課題を共有し、解決のためのアプローチを共に模索した。この議論を基に、日本の特に川崎拠点でのアントレプレナーシップの育成やグローバルエコシステムの構築に取り組む。さらに、BioLabs 欧州サイトと、川崎拠点における課題共有・解決のためのパートナー関係を構築し、互いに課題を相談し合える関係づくりを行なった。



ウ 入居希望者応募、スポンサー等獲得状況

- ①スタートアップの誘致：162件のコンタクト、12件が入居に意欲的（金銭的な理由などを理由にペンディング）
- ②入居審査委員会（一次審査を BioLabs 社と実施後、二次審査委員会を開催）
- ア 令和5年度第1回審査会（令和5年12月20日(水)）
 (株)ソティステクノロジーズが審査通過（入居日未定）
- イ 令和5年度第2回審査会（令和6年3月29日(金)）
 (株)Yaxie、(株)Logomix が審査通過（(株)Logomix は6/1入居予定）
- ③入居候補企業：問い合わせ・面談一覧

問い合わせ・面談企業	月日	問い合わせ・面談企業	月日
アルファフュージョン	4/20	タグシクス・バイオ	6/2
クロバーナ	4/28	ノベルジェン	6/13
モルミル	5/9	株式会社 IDDK	6/20
CULTA	5/10	YStory	6/26
ティーセルヌーヴォー	5/12	メルティン MMI	6/26
ペリオセラピア	5/14	レグセル	7/11
CoreTissue BioEngineering	5/16	Craif	7/18
レストアビジョン	5/16	Elix	7/18
LAB バイオテック	5/18	ソティステクノロジーズ	7/26
コウソミル	5/19	S&K バイオフィーマ	8/2
ユビエンス	5/21	オーガンテック	8/4
昂技研	5/22	ライラックファーマ	9/1
ミラックスセラピューティクス	5/26	東京核酸合成	9/6
C4U	5/27	NekoPharma	9/22
aiwell	5/31	Logomix	9/26

④スポンサー候補・連携候補企業：面談一覧

問い合わせ・面談企業	月日	内 容
サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)	継続協議中	将来購入する分析機器のディスクカウント
メルク(株)	継続協議中	将来購入する分析機器のディスクカウント及び、メルク社が運営するスタートアップ支援プログラ

		ムへの入居企業の優遇参加
慶應義塾大学	継続協議中	慶應義塾大学スタートアップ支援 HP への iCONM with BioLabs のロゴの記載と、慶應義塾大学発スタートアップの iCONM への入居優遇

・施設設備

施設利用状況

企業名	代表者	事業内容	利用内容
RDiscovery, LLC (令和5年1月16日利用開始)	Walter Olesiak	日本のアカデミアから新しい創薬シーズを見出し、それらを新薬開発のルートに乗せるという戦略を実行するために運営され、親会社のレミジェス・ベンチャーズの能力を拡張する統合的なイノベーションエンジンとしての役割を果たす	ラボベンチ1 オフィスデスク1
(株)フェロトキユア (令和5年3月15日利用開始)	大槻 雄士	酸化ストレスによる細胞死(フェロトーシス)のメカニズムを利用した抗がん剤の開発	ラボベンチ1 オフィスデスク2 メンバーシップ1

12 財団運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会

第1回理事会

【開催日】

令和5年6月7日(水)

【開催場所】

川崎市産業振興会館 11階 第6会議室、及びWEB会議システム Zoom 併用

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 令和5年度事業計画の一部変更及び収支予算の補正について

第2号議案 令和4年度事業報告について

第3号議案 令和4年度決算報告、同監査報告について

第4号議案 令和5年度第1回評議員会の開催について

(2) 報 告

第1号報告 役員等の業績評価の実施について

【出席等】

決議に必要な出席理事の数7名、出席10名、欠席2名

監事出席2名、欠席0名

第1回評議員会

【開催日】

令和5年6月28日(水)

【開催場所】

川崎市産業振興会館・11階第6会議室及びWEB会議システム Zoom を併用

【議 事】

第1号議案 令和5年度事業計画の一部変更及び収支予算の補正について

第2号議案 令和4年度事業報告について

第3号議案 令和4年度決算報告、同監査報告について

第4号議案 理事及び監事、評議員の選任について

【出席等】

決議に必要な出席評議員の数5名、出席5名、欠席3名

監事出席2名、欠席0名

第2回理事会

【開催日】

令和5年6月28日(水)

【開催場所】

なし（書面同意によりみなし決議）

【議 事】

第1号議案 理事長（代表理事）、副理事長の選定について

【出席等】

理事全員より書面による同意の意思表示

監事全員により書面による異議がないとの意思表示

第3回理事会

【開催日】

令和5年10月26日（水）

【開催場所】

川崎市産業振興会館 11階 第6会議室、及びWEB会議システム Zoom 併用

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 基本財産の運用について

(2) 報 告

第1号報告 令和5年度 業務執行状況について

【出席等】

決議に必要な出席理事の数7名、出席11名、欠席1名

監事出席2名、欠席0名

第4回理事会

【開催日】

令和6年3月4日（月）

【開催場所】

川崎市産業振興会館 11階 第6会議室、及びWEB会議システム Zoom 併用

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 令和5年度事業計画の一部変更及び収支予算の補正について

第2号議案 令和4年度事業報告について

第3号議案 令和4年度決算報告、同監査報告について

第4号議案 令和5年度第1回評議員会の開催について

(2) 報 告

第1号報告 役員等の業績評価の実施について

【出席等】

決議に必要な出席理事の数 7 名、出席 10 名、欠席 2 名

監事出席 2 名、欠席 0 名

第 2 回評議員会

【開催日】

令和 6 年 3 月 28 日(木)

【開催場所】

川崎市産業振興会館・10 階第 4 会議室及び WEB 会議システム Zoom を併用

【議 事】

(1) 議 案

第 1 号議案 令和 6 年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資について

(2) 報 告

第 1 号報告 令和 5 年度 業務執行状況について

第 2 号報告 基本財産の運用について

【出席等】

決議に必要な出席評議員の数 5 名、出席 8 名、欠席 0 名

監事出席 2 名、欠席 0 名

(2) 業務執行体制等

① 組織力強化にむけた取組

中小企業支援の効率化に向けてクラウド型データベースの活用を進めた。

また、管理部門で活用するシステム間の連携やサーバ運用の見直しを進め、業務プロセスの効率化を行った。

人材育成計画に基づいて職員研修を実施し、中小企業大学校研修修了者は 5 名であった。また、外部講師による中小企業支援に関する研修を実施し、6 名が修了（全 2 回受講者）した。このほか、1 名が取得支援要綱に定める資格を取得した。

② 役職員数（令和 6 年 3 月 31 日現在）

常勤理事 3 名、プロパー職員 23 名、民間出向職員 3 名、任期付職員 1 名、特定任用職員 24 名、特定研究職員 19 名、専門嘱託職員 13 名、一般嘱託職員 12 名、臨時職員 4 名、派遣職員 7 名、業務委任 6 名、合計 114 名

令和 5 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。